©Toshio Hagiwara

PIGEON POST
ミヤマから「信州のキラメキ」をお届けします　ピジョンポスト #19

# 世界中を驚かせ魅了した「Snow Monkey（スノーモンキー）」

## 温泉に入る世界唯一の野生サル 地獄谷野猿公苑の50年の歩み

「Amazing..!!!（すごい）」「This was one of the best view（最高の景色）」「So much fun watching this incredible...（信じられない光景ですごく楽しい）」

海外からのそんな感嘆のつぶやきが次々とツイッター上にアップされる人気の観光地が北信濃にあります。長野市から電車で1時間、そこからバスに乗り換え、最後にさらに山道を30分ほど歩いて辿り着く志賀高原の「地獄谷野猿公苑」です。野生のニホンザルを間近で観察でき、世界で唯一サルが温泉に入る場所として知られるこの公苑は、近年、海外での人気が急速に高まっています。昨年は約3万人の外国人観光客がこの地を訪れ、日本人が3割に満たない日もあったといいます。実際に私たちが足を運んだ時も、そのほとんどは海外からの旅行者でした。私たちにとってもアクセスが難しいこの地が、世界の人々を惹きつける理由はどこにあるのでしょうか。

開苑は1964年。当時、志賀高原では1952年に日本初のスキーリフトが設けられて以降スキー場開発が急激に進み、生息地を追われた野生のサルが下流の果樹園に現れ、農作物が被害を受けていました。そこで地元では林野庁にサルの駆除を願い出たのです。そこに「待った」をかけたのが、長野電鉄職員、原 荘悟さんでした。原さんはかつて山歩きをするなかで野生のニホンザルの群れに遭い、その姿に魅了されて以来、サルと人間の共生を考えていました。「エサが足りていれば田畑への被害はなくなるのではないか」。そんな発想から「地獄谷渓谷に生息する野猿の餌づけ」と題した企画書を長野電鉄に提出。地獄谷温泉の一軒宿「後楽館」の竹節春枝さんや、長野電鉄山岳部の協力を得て餌付けに取りかかります。構想から約5年を経た1962年の春、とうとう警戒心の強いサルと心を通わせることに成功。その後、後楽館周辺にはサルの群れが現れるようになりました。

寒さをしのぐため、最初に宿の露天風呂に入ったのは、好奇心旺盛な子ザルだったといいます。すると徐々に仲間のサルもつられて入るようになり、その気持ちの良さそうな表情が朝日新聞に掲載されると、全国的に地獄谷のサルへの注目度が一気に高まったのです。その結果、公苑として整備をすることで観光地化を進めようとの意見があがり、1964年、地獄谷野猿公苑が開苑しました。

その後、サル専用の露天風呂も完成し、1970年には米国雑誌『LIFE』の表紙に"Snow Monkey"として掲載され、その存在が世界に知られるようになりました。長野冬季五輪を契機に多くの外国人観光客が訪れるようになり、2007年には外国人向け旅行ガイド「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で1つ星を獲得。世界最大の旅行口コミサイト・トリップアドバイザー「外国人に人気の日本の観光スポット2013」では、築地場外市場や奈良公園といった観光地を抑え、第5位に選ばれています。

今年で開苑50年を迎える地獄谷野猿公苑。「サルと人間の共生」を目指して作られたこの場所は、長い年月をかけてその理念を具現化し、世界のどこにもない人間と動物の関係を作り上げてきました。野生でありながら手が届きそうなほど間近で観察ができ、一般観光客には関心も示さないが逃げもしないという不思議な距離感。世界の人々がこの地に惹かれる理由は、そんなところにあるのかも知れません。

# Snow Monkeyをもっと楽しむ

## >>> アクセス

地獄谷野猿公苑専用の無料駐車場は上林温泉にあります（最寄りの有料・地獄谷駐車場は冬期閉鎖）。そこから地獄谷に至る「湯道遊歩道」は未舗装で、一部坂がありますがほぼ平坦な道のり。ただし、車椅子やカートの利用はできません。公共交通機関を使う場合は湯田中駅から長電バス上林線で上林温泉バス停下車。そこから徒歩40分ほどで公苑にたどり着きます。

**観光客の目の前で気持ち良さげに温泉に浸かり、間近で写真撮影ができる野生のサルは、世界では地獄谷野猿公苑にしかいないと言われています。ここのサルは人間が近寄っても全く逃げません。しかし、エサをねだったり物を取るといった興味も示しません。ほどよい距離感を保つためには、さまざまなルールや注意事項があります。**

## >>> 防寒対策は万全に

多い時には2mもの雪が積もる地獄谷渓谷。谷間にあるため日陰も多く、万全の防寒対策が必要です。また、地獄谷温泉公苑までは駐車場から約1.6km、徒歩30分の道のりなので、冬用のブーツや長靴が必須。雪道は滑りやすいため、できれば裏底に滑り止め加工が施されたものが良いでしょう。荷物はしっかりとフタのしまるバックに入れ、背負うか斜め掛けに。ビニール袋を手に持つことは厳禁です。

## >>> 温泉に入るサルの秘密

温泉に入ることで知られている地獄谷野猿公苑のサルたちですが、これは厳しい冬の寒さをしのぐ方法のひとつで、温暖な時期には積極的に温泉には入りません。また、温泉に入ることは彼らの生活のほんの一部分であり、四六時中、温泉に入っているものでもないのです。また、ボスザルをはじめとするオスは群れを守るためにすぐに行動できる態勢をとっているため温泉に入ることを嫌いがちですが、現在のNo.2のオスザルは珍しく好んで入浴をしています。

## >>> サルの目を見つめないで

サルを触ることは禁止されています。サルたちは触られたり身の危険を感じると、威嚇したり噛み付いたりします。また、サルの社会では、近くで相手の目をジッと見つめたり、大きな口を開けることは敵意の表現。カメラ越しの視線は気にしませんが、自分の姿がレンズに写り込むと気になるようなので、少し離れて撮影してください。そして、サルの天敵である犬や猫等を連れての入苑も禁止されています。

## 萩原さんに聞きました。地獄谷のサルの撮影のコツ

©Toshio Hagiwara

**公苑職員の萩原敏夫さんは、2006年、米国最高峰の自然写真コンテスト「06ネイチャーズ・ベスト国際写真コンテスト」でグランプリを受賞した名カメラマン。そこで萩原さんに、撮影のコツを聞きました。**

サルは仕草や表情が人に似ていて、そこにおもしろさがあります。そこで撮りたい気持ちをちょっと抑えて、まずはどういう行動や仕草をしているかを自分の目で観察することが大切。動きがわかってくると、行動予測がつきやすくなり、撮影がしやすくなります。また、緊張した表情を浮かべていたり、近づきすぎて機嫌が悪そうだったり、口を開けて脅かす仕草をしている場合は、視線を背けて意識を反らし、距離を取ることが大切。そして、上から見下ろすのではなく、姿勢を下げてサルと同じ目線になると自然な表情が撮影できます。加えて、サルに限らず、動物も人間も写真では目が重要。目がしっかり写っていれば良い写真が撮れるでしょう。

**地獄谷温泉公苑で用いているエサは、大麦と大豆、リンゴのみ。自然界にエサが少ない冬場は大麦のみを1日3回与え、サルの好物である木の実が穫れる秋には、1日4回の餌付けのなかでリンゴを多めに与えます。また、夏は4回目の餌付けにリンゴだけを与えることで、サルが暑くても夕方まで山に帰らず公苑内に留まるよう工夫をしています。**

## >>> 餌付けにも工夫しています

動物園のような限られた空間ではなく、より自然に近い状態でサルを観察することができる地獄谷野猿公苑は、開苑以来、徹底的に「猿と人間の共生」を目指しています。そのため、特定の職員のみが定時に餌付けを行うことで、観光客はエサも危害も与えない者と認識させています。また、サルは学習能力が高いため、普段食べているものよりも少し上等のエサを用いることで「そこに行けば必ず旨いものが食べられる」ことを習慣付けています。開苑当初からのこうした努力が、わずか1mの距離でも写真を撮ることができるという魅力を生み出し、日本のみならず海外からの観光客も呼び寄せています。

**地獄谷野猿公苑**

下高井郡山ノ内町大字平穏6845　TEL 0269-33-4379　夏季（4月頃～10月頃）：8時30分～17時、冬季（11月頃～3月頃）：9～14時　年中無休
料金：大人一般（中学生以上）500円・団体（20人以上）420円・年間パス3000円／子ども（5歳以上、中学生未満）250円・団体（20人以上）210円・年間パス1500円
※営業時間は概ねの目安です。野猿公苑のニホンザルは野生動物です。天候、季節、ニホンザルの行動等により予告なく変動することもあります。特に秋はサルの行動が活発で不規則になりがちです。

# MIYAMA information

## 増えています。土壌汚染の自主調査

土壌汚染対策法に基づく義務的な土壌調査（※1）とは別に、土地の売買などに伴う自主調査が増加しています。事前に調査することで責任の所在が明確になることはもちろん、買い手にとっては工期の延長や事業計画の変更等を避け、売り手にとっても瑕疵担保責任による損害賠償等を回避することにつながります。土地の現状を正しく把握し早期に対策をとることで、リスクの軽減と資産価値の向上を図ることが可能です。
ミヤマでは土壌汚染の調査業務をはじめ、汚染が確認された際の各種行政手続きから浄化対策までを一貫して行っています。

**土壌汚染の調査・対策の流れ**

**地歴調査**
登記簿謄本や地形図、時代ごとの航空写真等から土地の所有者や利用履歴を調べ、汚染の可能性を調査します。

**表層土調査**
土壌汚染の可能性がある場合には、表層土壌や土壌中のガスを採取し、汚染の有無と表面的な広がりを調査します。

**深度調査**
汚染が発覚した区画について、深さ方向での汚染の状況および地下水汚染の有無等を調査します。

**浄化対策**
汚染の状況や汚染物質の種類にあわせ、最適な方法での浄化対策をご提案します。

※1土壌汚染対策法により調査が義務図けられるのは以下の場合です
① 法定の有害物質を使用している特定施設を廃止した場合
② 3000㎡以上の土地の形質変更に伴い、
行政から調査命令を課された場合
③ 健康被害が生じるおそれありと都道府県知事が認めた場合

2014 February-March

低濃度液にも対応!

## キャタリスト処理液からのパラジウムリサイクル

パラジウム含有量 100ppm 以下の低濃度液からも効率的に成分を分離・抽出することで、これまでリサイクルされずに処理されていた廃液の再資源化を実現しました。
樹脂めっき加工をはじめ、電子部品や自動車触媒等の産業用途のほか、医療分野や近年では装飾品としての人気も高まりつつあるパラジウム。今後予想される需要増に向け、ミヤマではより精度の高い分離・抽出技術を追求し、リサイクル効率の向上を進めてまいります。

## 環境検査計測事業部のHPが新しくなりました

環境検査計測事業部のサービスや事業を紹介するHPをより充実させリニューアルしました。これまで検査・分析事業で行った原因究明分析や法律相談など、お客様の環境対策や課題解決に役立つ情報を幅広くご提供しています。随時更新いたしますので、ぜひご覧ください。

http://www.miyama-analysis.net/

ECTM ECOTECH MIYAMA
総合環境企業
ミヤマ株式会社
本社／〒381-2283 長野県長野市丹波島一丁目1番12号　TEL.026-285-4166（代）　FAX.026-283-0011
■リサイクルセンター／東京・燕・秋田・名古屋・大阪　■工場／中野・上越・分水・燕・大町
■技術開発センター　■EM開発センター　■長野テクノセンター　■保全機材センター
■名古屋プラントサービスセンター　■新潟プラントサービスセンター　■関西プラントサービスセンター
■営業所／盛岡・秋田・仙台・郡山・宇都宮・水戸・新潟・長岡・燕・上越・中野・長野・上田・松本・諏訪
甲府・前橋・埼玉・東京・千葉・横浜・静岡・富山・名古屋・京都・大阪
詳しくは当社ホームページへ　http://www.miyama.net/　ミヤマ　検索



PIGEON POST #19
発行日：平成26年2月1日　発行人：南 克明　企画：ミヤマ株式会社 広報室　制作：合同会社ch.